

25	オリンピック・パラリンピック準備局	ラグビーワールドカップ 2019 TM の準備・開催
事業概要	<p>ラグビーワールドカップ 2019TM(以下「RWC2019」という。)は、ラグビーのナショナルチーム世界一を決定する世界的な大規模スポーツ大会であり、令和元年9月20日から11月2日まで、東京をはじめ全国12都市で開催される。</p> <p>RWC2019は、スポーツ都市東京を世界にアピールするとともに、都民のスポーツへの関心を高める絶好の機会となる。</p> <p>また、RWC2019の会場となる東京スタジアムは、多摩地域のスポーツ拠点であり、翌年の東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会では7人制ラグビー会場ともなることから、東京におけるラグビーの普及振興を図ることができる。</p> <p>RWC2019と東京2020大会を一体的なものとしてとらえ、両大会共通の課題について戦略的に準備を進めていくことで、RWC2019の取組を東京2020大会につなげていく。</p> <p>RWC2019開催に向けて、オリンピック・パラリンピック準備局は、庁内各局、公益財団法人ラグビーワールドカップ2019組織委員会(以下「RWC2019組織委員会」という。)、公益財団法人日本ラグビーフットボール協会、他の開催自治体、都内市区町村などと連携し、大会を成功に導く。</p>	
これまでの経過	<p>平成21年7月28日 ラグビーワールドカップ 2019TM (RWC2019) の日本開催が決定</p> <p>平成26年10月21日 都がRWC2019の開催都市に立候補</p> <p>平成27年3月2日 都がRWC2019の全国12の開催都市の一つに決定</p> <p>平成27年9月18日 ラグビーワールドカップ 2015 (RWC2015) が開幕</p> <p>平成27年9月28日 都の開催会場として東京スタジアムが決定し、併せて開会式及び開幕式の東京スタジアムでの開催が決定</p> <p>平成27年10月27日 RWC2019の開催期間が決定</p> <p>平成28年1月29日 RWC2019 東京都開催分に伴う経済波及効果の試算を公表(約824億円)</p> <p>平成28年6月18日 ラグビーテストマッチ(日本代表対スコットランド代表)に合わせ、パブリックビューイングを汐留で実施</p> <p>平成28年6月25日 東京スタジアムでラグビーテストマッチ(日本代表対スコットランド代表)が開催、同スタジアム周辺でラグビーフェスティバル2016&TOKYOを開催</p> <p>平成28年9月20日 RWC2019開催3年前を記念し都庁舎等でライトアップ実施</p> <p>平成28年11月5日 ラグビーテストマッチ(日本代表対アルゼンチン代表)に合わせ、フォーリス前けやき広場(府中)でパブリックビューイングを実施</p> <p>平成28年12月24日 RWC2019開幕1000日前イベントを開催及びライトアップを東京タワーで実施</p> <p>平成29年1月7日 ジャパンラグビートップリーグ(サントリーサンゴリアス対東芝ブレイブルーパス戦)で小中高生向け観戦招待を実施</p> <p>平成29年1月11日 RWC2019公認チームキャンプ地に全国で76件90自治体が応募、うち都内では3自治体(武蔵野市、府中市、町田市)が応募</p> <p>平成29年1月27日 ホームページ「東京都ラグビー情報」を公開</p> <p>平成29年2月27日 ラグビー絵本「はじめてのラグビー教室」を作成。都内の公立・私立の小学校や、都立・区市町村立の図書館に配布</p> <p>平成29年3月10日 RWC2019における東京スタジアムの会場運営計画を策定</p> <p>平成29年5月10日 RWC2019のプール組分け抽選会開催にあわせ、都庁舎でパブリックビューイングを実施</p> <p>平成29年6月24日 東京スタジアムでラグビーテストマッチ(日本代表対アイルランド代表)開催、同スタジアム西競技場で東京ラグビーファンゾーン2017開催</p>	

平成 29 年 9 月 18 日	RWC2019 大会 2 年前イベントを東京国際フォーラムで開催及び東京スタジアム等でライトアップを実施
平成 29 年 11 月 2 日	ワールドラグビーのビル・ボーマント会長が都知事を表敬訪問 試合日程及びチケット販売概要発表、試合日程発表会に合わせ、都庁舎でパブリックビューイングを実施
平成 29 年 11 月 4 日	ラグビーテストマッチ（日本代表対オーストラリア代表）に合わせ、東京ラグビーファンゾーン 2017in 日比谷を実施
平成 29 年 12 月 24 日	ジャパンラグビートップリーグ（サントリーサンゴリアス対東芝ブレイブルーパス戦）で小中高生向け観戦招待を実施
平成 30 年 1 月 19 日	先行チケット抽選販売開始
平成 30 年 1 月 26 日	RWC2019 公式マスコット「レンジー」発表
平成 30 年 3 月 9 日	RWC2019 東京都交通輸送基本計画を策定
平成 30 年 3 月 23 日	RWC2019 公式ボランティアプログラム概要決定
平成 30 年 4 月 1 日	ラグビーワールドカップ 2019 組織委員会東京地域支部（LOC）設置
平成 30 年 4 月 20 日	RWC2019 公認チームキャンプ地が内定
平成 30 年 4 月 23 日	RWC2019 ボランティア募集開始
平成 30 年 5 月 6 日	大会 500 日前イベントを秩父宮ラグビー場で開催 デイカウンターをお披露目
平成 30 年 6 月 16 日	ラグビーテストマッチ（日本代表対イタリア代表）に合わせ、秋葉原でラグビーパブリックビューイング 2018inTOKYO を実施
平成 30 年 6 月 23 日	ラグビーテストマッチ（日本代表対ジョージア代表）に合わせ、調布駅前広場等でラグビーパブリックビューイング 2018inTOKYO を実施
平成 30 年 9 月 19 日	チケット一般抽選販売開始
平成 30 年 9 月 23 日	RWC2019 大会 1 年前イベントを銀座ソニーパークで開催
平成 30 年 11 月 1 日	RWC2019 における東京スタジアムの会場運営計画を更新
平成 30 年 11 月 3 日	東京スタジアムでラグビーテストマッチ（日本代表対ニュージーランド代表）開催、合わせて東京ラグビーファンゾーン 2018 を旧 1000 days 劇場（現東京スポーツスクエア）で開催
平成 30 年 11 月 9 日 ～10 日	組織委員会と共催でポップアップミュージアムを旧 1000 days 劇場（現東京スポーツスクエア）で開催
平成 30 年 12 月 14 日 ～18 日	ラグビーワールドカップ 2019 TM 日本大会 RWC2019 ボランティアインタビュー・ロードショーを旧 1000 days 劇場（現東京スポーツスクエア）で実施
平成 31 年 1 月 19 日	ニューイヤーイベントとして、日本青年館から、町田市、府中市、三鷹市、武蔵野市、調布市を巡る「東京ラグビーキャラバン」を実施 チケット一般先着販売開始
平成 31 年 1 月 31 日	ファンゾーン開催会場が、調布駅前広場及び調布市グリーンホール、東京スポーツスクエアに決定
平成 31 年 3 月 3 日 ～31 日	東京スポーツスクエアで、RWC2019 TM 東京開催応援フェアを開催
平成 31 年 3 月 10 日	ラグビーワールドカップ 2019 TM 日本大会ボランティアオリエンテーションを世田谷区民会館で実施
平成 31 年 3 月 20 日	RWC2019 東京都交通輸送実施計画を策定
平成 31 年 4 月 13 日	東京スポーツスクエア別館を、「ラグビー情報発信拠点」として新装オープン（4 月 13 日～8 月 31 日）
平成 31 年 4 月 23 日	RWC2019 ファンゾーン運営計画（案）を策定

令和元年6月7日	RWC2019 日本大会ボランティアリーダートレーニングを東京スポーツスクエアで実施（7日～9日）
令和元年6月13日	ワールドラグビーCEOが都知事を表敬訪問
令和元年6月16日	大会100日前イベントを丸ビル マルキューブで開催
令和元年7月5日	RWC2019 組織委員会と連携して、RWC2019 日本大会ボランティアロールトレーニングを東京スポーツスクエアで実施（5日～8日）
令和元年7月27日	ラグビーテストマッチ（日本代表対フィジー代表）に合わせ、町田シバヒロでパブリックビューイングを実施
令和元年7月31日	優勝トロフィー「ウェブ・エリス・カップ」を庁内展示
令和元年8月3日	ラグビーテストマッチ（日本代表対トンガ代表）に合わせ、歌舞伎町シネシティ広場でパブリックビューイングを実施
令和元年8月20日	大会1か月前装飾を実施
令和元年8月29日	RWC2019 日本大会ボランティアベニュートレーニング及びユニフォーム配布を東京スタジアムで実施（29日～9月1日）
令和元年9月6日	ラグビーテストマッチ（日本代表対南アフリカ代表）に合わせ、調布駅前広場及び日比谷公園にれのき広場でパブリックビューイングを実施
令和元年9月12日	日本ラグビーフットボール協会の森重隆会長が都知事を表敬訪問
令和元年9月19日	RWC2019 日本大会ボランティア（東京会場）が羽田空港で活動開始
令和元年9月20日	RWC2019 開会式及び開幕戦（日本代表対ロシア代表）を東京スタジアムにて実施
令和元年9月21日	ファンゾーン in 東京を多摩会場（調布駅前広場・調布市グリーンホール等）と区部会場（東京スポーツスクエア）で開始
令和元年9月22日	フランス代表対アルゼンチン代表の試合を東京スタジアムで実施 同試合に都内及び宮城県・福島県の子供たちを招待
令和元年9月29日	オーストラリア代表対ウェールズ代表の試合を東京スタジアムで実施。同試合に都内の子供たちを招待
令和元年10月5日	イングランド代表対アルゼンチン代表の試合を東京スタジアムで実施。同試合に都内の子供たちを招待
令和元年10月6日	ニュージーランド代表対ナミビア代表の試合を東京スタジアムで実施
令和元年10月11日	台風19号の影響により、ファンゾーン多摩会場を中止
令和元年10月12日	台風19号の影響により、ファンゾーン両会場を中止
令和元年10月13日	台風19号の影響により、ファンゾーン両会場の開催時間を変更
令和元年10月19日	ニュージーランド代表対アイルランド代表の試合（準々決勝）を東京スタジアムで実施
令和元年10月20日	日本代表対南アフリカ代表の試合（準々決勝）を東京スタジアムで実施
令和元年11月1日	ニュージーランド代表対ウェールズ代表の試合（3位決定戦）を東京スタジアムで実施
令和元年11月2日	RWC2019 閉幕
令和元年11月6日	大会写真展を都庁舎で実施（6日～12日）
令和元年11月25日	RWC2019 組織委員会の嶋津事務総長が都知事を表敬訪問
令和元年12月7日	RWC2019 組織委員会と連携して、RWC2019 日本大会ボランティアサンキューパーティーを赤羽会館で開催（7日～8日）
令和元年12月12日	RWC2019 記念シンポジウムをJPタワーで開催

1 試合会場の提供

RWC2019 組織委員会と会場運営計画を取りまとめ、平成 29 年 3 月にラグビーワールドカップ運営受託会社のラグビーワールドカップリミテッドに提出した。平成 29 年度は、スタジアムの改修整備計画を取りまとめ、改修工事の実施設計を行い、平成 30 年度は、改修工事を進めるとともに、会場運営計画の更新を行った。令和元年度は、会場運営計画に基づき、競技用照明やメディア席等の仮設設備を整備し、大会期間中の維持管理を行った。

2 交通アクセス

平成 28 年 6 月に東京スタジアムの会場周辺及びアクセス検討プロジェクトチームを設置し、2019 年大会時の東京スタジアムへの交通アクセス、試合会場周辺の土地活用について、課題の検討を関係団体と連携して進めた。平成 29 年度は、2019 年大会時の交通輸送に係る基本計画を策定し、平成 30 年度は、各関係機関や各種計画との調整により、項目・内容等を精査し、実施計画を策定した。令和元年度は、交通輸送実施計画に基づいて関係機関と連携し、交通輸送分野における開催期間中の運営等に万全を期すとともに、東京スタジアム周辺及び最寄り駅から試合会場までの観客動線等におけるセキュリティ・医療対策を講じ、来場者の安全と、大会の円滑な運営を確保した。

3 公認チームキャンプ地

公認チームキャンプ地は、大会期間中にチームが滞在するキャンプ地で、RWC2019 組織委員会が選定プロセスを一元管理した。都は、誘致主体である都内区市町村に対し、適時適切に相談・情報提供をきめ細かく行うとともに、平成 29 年度は、区市町村によるキャンプ地誘致の取組を支援するため、区市町村スポーツ施設整備費補助を拡充し、公認チームキャンプ地及び事前チームキャンプ地の施設整備のための工事について補助対象とした。平成 31 年 3 月に、RWC2019 組織委員会が公認チームキャンプ地を決定し公表した。都内では、立候補した武蔵野市、府中市、町田市に加え、RWC2019 組織委員会が独自に追加確保した 3 か所が決定した。大会期間中、各公認チームキャンプ地では、滞在チームと地域住民が交流する機会が設けられた。

4 気運醸成

大会の認知度向上及び大会開催の気運を高めるため、ラグビーに関心のない層をはじめ、多くの都民・国民に興味を持っていただけるように、大会のプロモーションを実施した。平成 30 年度は、大会開催 500 日前や 1 年前を記念したイベントを実施するとともに、6 月にはラグビーテストマッチに合わせて、多摩・区部でパブリックビューイングを実施した。令和元年度は、大会開催 100 日前イベントを実施するとともに、7 月から 9 月にかけて実施されたラグビーテストマッチ（3 試合）に合わせて、パブリックビューイングを実施した。加えて、大会前から大会期間中にかけて、大会に向けた気運の盛り上げと来訪者のおもてなしのため、街灯フラッグ、横断幕等を掲出するとともに、ホームページ、SNS を活用した積極的な情報発信などを実施した。また、東京スタジアムの試合日には、スタジアム内で観客向けのおもてなしイベントを実施した。

5 ファンゾーン

ファンゾーンとは、RWC2019 の開催期間中、各開催都市に設置されるイベントスペースである。平成 31 年 1 月に、ファンゾーン開催会場が、調布駅前広場及び調布市グリーンホール、東京スポーツスクエアに決定した。同年 4 月には、ラグビーワールドカップ 2019TM ファンゾーン運営計画（案）を策定し、基本コンセプトや開催日、パブリックビューイング、ステージイベントやラグビー体験、飲食コーナー等のコンテンツを定めた。同年 9 月 20 日からファンゾーン in 東京を開催し、台風 19 号の影響により中止になった日もあったが、来場者数は、両会場合計で想定を大きく上回る 310,500 人となった。

	<p>6 ボランティア</p> <p>RWC2019 組織委員会は、平成 30 年 4 月から 7 月にかけてボランティアを募集し、全国で 38,000 人を超える応募があった。都は、東京都観光ボランティア及び一般財団法人東京マラソン財団オフィシャルボランティアクラブ VOLUNTAINER（ボランテイナー）から 1,060 人を組織委員会に推薦した。</p> <p>インタビュー・ロードショー（面談）を経て、東京会場のボランティアとして採用が決定された約 2,400 人の方々を対象に、平成 31 年 3 月にボランティアの理念を説明するオリエンテーション、7 月に役割別に活動内容を紹介するロールトレーニング、8 月下旬からは活動当日の流れや活動場所に関する情報を提供するベニユートレーニングを開催した。（同年 6 月にはリーダーを対象に必要なスキルをお伝えするリーダートレーニングも開催）</p> <p>大会時、9 月 19 日から 11 月 2 日の活動期間中、都が運営するボランティアは、試合会場である東京スタジアム周辺の最寄駅やシャトルバス乗換駅、羽田空港や都内主要駅、ファンゾーン（区部会場、多摩会場）において、観客案内、観光・交通案内、ファンゾーンの運営サポート等の活動を行った。</p> <p>大会後の令和元年 12 月 7 日及び 8 日には、サンキューパーティー（大会を支えたボランティアに感謝の意を表すイベント）を開催した。なお、東京会場で活動したボランティアのうち 1,069 名は、RWC2019 で得た経験等を活かし、東京 2020 大会のシティキャストとして活動予定である。</p>		
今後の見通し	<p>大会を通じて盛り上がったラグビー熱を一過性のものとせず、大会後も東京のラグビー文化の定着を図るとともに、RWC2019 を通じて得た様々な経験や知見を東京 2020 大会の成功につなげていく。</p>		
問い合わせ先	オリンピック・パラリンピック準備局 スポーツ推進部 調整課	電話	03-5320-7723